

おの女官様又ロロ



こんにちは 新洋技研です。「この季節 花粉症で目や鼻をまっ赤にされている人を良く見かけますが、お客様は大丈夫ですか？ 私も数年前、ある元元さんにサーマルタンクの納品に伺ったとき、車から降りた瞬間から猛烈に目が痒くなり、鼻はグスクス、くしゃみは出るわ、で納品どころではなくなってしまったことがあり、ました。辺りを見回すと、近くに「本の杉の木が・・・」の様子を見ていた感の方達に笑われてしまったことを覚えています。誰かが「花粉症を治すには杉の葉を取ってきて、それを煎じて飲むと治るんだって」と言っておりましたが、近寄る事も出来ない杉の木の葉を、一体誰が取って来るんだ！

しかしこの花粉症、杉だけでなく、ある人は松の木、またある人は花の花粉に反応すると聞いたことがあります。ともあれ家に帰ったら、まずは玄関に入る前に服やコートをしつかりと払い、手洗い、うがいを励行しましょう。

さて、いよいよアサヒビールが発泡酒を発売しました。「発泡酒は造らない」と確かな宣言をしていたように記憶しているのですが、やはり時代の波には逆らえなかったのでしょうか？ 景気は緩やかな回復基調にあるとの言葉も最近はずいぶん慎重な言い方に変わってきているように取れます。一体何が本当のことなのか、どう動かなければならないのが見極めるのはなかなか難しいところではあります。

若い消費者層の好むアルコール飲料は価格が安く、スッキリしたものを好む傾向は否めないとありますが、また逆に「美味しいお酒」に興味を持っていることも確かだと思えます。当社の社員が友人達に「今私は日本酒の設備を中心とした仕事をしている会社にいるんだ」と言ったところ、目を輝かせて「お酒？じゃあ美味しいお酒が手に入るんじゃないの？」と口に回して「！」と言われたそうです。(この「美味い」という言葉はとて大雑把な言い方ではありません、若い消費者に頼むる酒、という意味ではありません)

居酒屋さんなどで「同僚たちと量を沢山飲んで鬱積を晴らす」的なことがなくなつて、それほど量も飲まないが、「美味しいお酒を楽に飲む」という時代の移り変わりにおいては、「量」というよりもやはり「質」なのではないかと感じていきます。

第一回

生産部 副部長 佐藤 弘

サカツラガン 酒面雁

日本の鳥シリーフ

「一献にやうやう類染まりゆくさまのいとをかし」
いにしへの才女ならこう書き出しそうだが、事実あの瞬間には見た目独自の趣があり、男女を問わず上品な色香を漂わせることがあるから不思議である。

閑話休題、此れ迄に国内で観察された鳥は530種を越えるという。中に唯一酒にちなんだ和名をもつ「サカツラガン」という鳥がいる。白い頬にポツと赤みが差した顔立ちから名付けられたのであろうが、サカツラとは身も蓋もない、何とも無粋な命名ではなからうか。さりとしてホロヨイやノンペエでは「もっと真面目にやれ」と、どこから声が掛かりそうだ。おそらく学者先生は悩み抜いたあげく、これは文学ではなく科学の世界だ、エイヤーッとはばかり気合もろとも名付けたに違いない...、そう思えてならない。本種は、ごく少数がウィンタービジターとして日本に渡来する。



弊社関西支店 事務主任の橋原亨ですが、家庭の事情により、当分の間お休みの事になりました。ニューフェイスとして金澤よりが面接されたお世話になります。同じ大に遊ばれているおちもめな女性です。橋原同様、宜しく御引立ての程、お願い申し上げます。

「微差」「大差」「絶対差」

M次長「あー、もうやめたやめた！ぜんぜん結果が出ない！」O部長「ひとつの事を始めたらそうそう簡単にあきらめるもんじゃないよ！継続は力なり」という言葉があるでしょーが、M次長「けどオレにはやっぱり向かないんだ」K主任「そんなに簡単に事がうまく言ったらだれも苦労はしませんよ、O部長「はじめは目に見えないくらいの僅かな差であってやがてはそれが大きな差になるんだから。人それぞれスピードは違ってもしれないけど必ず結果は出ると！」M次長「いいはね、すぐに結果が出る人は、K主任「そう言ってなんで私と部長をみるわけ？」

ある改善による効果がほんの小さな事にしか感じられないとついやめてしまいます。しかし、その僅かな差「微差」であって継続すれば次第に目に見える差になりはじめてます。つまり、最初の僅かな差が「大差」となり、結果的に簡単には追いつく事の出来ない「絶対差」となると言われています。

M次長「だから二人ともすぐに結果が出るじゃない、O部長「一体なんのことよ？」M次長「食べたら食べただけの結果がすぐに出る人はいいはね、オレなんかいくら太ろうと思って努力して食事の量を増やしても全く効果が無いもん。ああ、スマートな自分が羨ましい...」O部長・K主任「いい加減にしろっ！！」

「階段注意・ケガ痛い.....」

とある日、私は自宅(新潟)から支店に戻るべく伊丹空港に飛びバスで二宮へ、更にJ-1Rに乗るべく地下道への階段をおり始めた途端にハランズを滑り、あっと言う間に奈落の底へ...じやないが6、7段落ちてしまったのです。顔面からでなかつたのは不幸中の幸いでしたが(当社に「人いゝんです。そう言いつつ、右膝と右腕を弾打し、しかも右膝からは厚手のスラックスを通して血が...。何とか社員の女性が待つ最寄の駅まで辿りつき、病院へ。レントゲンの結果特に膝の異常は認められず「安心、しかし、医者に「うーん、このキスは縫ったほうが早く直るよ、二日後にまた来なさい」げ...。生まれてこのかた縫ったことなケガなんてしたことない。二日後が恐ろしい私なのでした。ほんの僅かな気分の緩みがかん痛い思いをする結果になるなんて、「注意一秒ケガ一生」とはよく言ったものです。ちなみに頭は瞬時に庇つたりしなく打たずに済みました。本当に怖かったです。

福島県の隠れ宿 「母畑温泉 八幡屋」 福島県 石川郡

昨年十一月、一泊二日の社員旅行で福島・栃木に行ってきました。バスに乗るや否やビール、酒、つまみ、と宴会状態で大騒ぎ。みんな元気がなあ...。常磐自動車道でいわき市に行き昼食、塩田峠を経由して小名浜の「アクアマリンふくしま」を見学。日がよかつたせい、魚を見にいっただのか人を見にいっただのか分からないようなこつた返しの状況でした。その後宿泊場所の「八幡屋」へ。到着してびびくりすうらっと並んだ従業員さんたちが満面の笑顔でお出迎え。そして、中に入って大きな吹き抜けのゆったりとした空間に一度びっくり。清潔で風情のある浴場で旅の疲れを癒し、心づくしの料理を楽しみ、翌朝再び敷地の外まで出て見えなくなるまで手を振る女将さんや従業員さんたちに、この宿の暖かさを感じながら帰路についたのでした。

0247 26 3131